

令和5年度第2回ゼニガタアザラシ科学委員会

議事録

日時：令和6年2月2日（金）15：00～17：00

会場：TKP 札幌駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム 2A

議事①：議事①：令和5年度(2023年度)事業実施結果

事務局より、資料1「令和6年度事業実施計画案」に基づいて報告した。

【主な質問】

- ・庶野の混獲が増え、またサケの漁獲量が激減しているが、対策や原因究明等について漁業者から話は出ているか。
⇒サケの漁獲量が非常に少ないため、被害リスクが高くなっているかもしれない。
⇒今年度はえりも町内のサケ類の漁獲量が130.9tと全体的に非常に少なかったが、その中で庶野地区の漁獲が一番多かったため、漁獲があった地域にアザラシが寄った可能性がある。（事務局）
- ・庶野で最近アザラシが寄ってきている等、何かアザラシに関する変化について漁業者から話が出ているか。また、現在のタコの状況はどうなっているのか。
⇒えりも漁協の一番東側の定置網で初めて混獲が1頭あった。また、庶野での混獲は1ヶ統のみであるため、混獲が集中した網の所に、いい餌があるとか、環境が変わっている可能性も考えられる。（事務局）
⇒タコについては、3年前に発生した赤潮の影響で激減し、最近少し戻りつつあるが、まだ過去の実績には至っていない。被害状況については大体タコとサケで見ているが、タコが少ないと魚に行き、魚が少ないとタコに行くと考えており、タコが戻ってきている分、目に見えない被害も含め、恐らくタコも大分被害を受けていると考えている。また、庶野の方が赤潮から回復するのが早かったため、アザラシが集中したのではないと思う。
⇒定置網の場合、網の中に被害が残るため状況を把握しやすいが、庶野のタコ漁は空釣り縄で行っているため、被害の確認が難しいという現状がある。（事務局）
⇒赤潮の翌年から昨年まで、アザラシの胃内容物からタコはほとんど出てこなかったが、今年から少しタコが出てきている。そのため、これらの結果からも庶野の方に移動していることが言えると思う。
- ・ここ5年ぐらいブリの漁獲量が増えているが、アザラシはブリには関心を示さないものなのか。
⇒2年ほど前ぐらいはブリへ被害も多く確認されていたが、サケに比べブリは体が硬い等によりアザラシには捕まえるのが難しいのではないかと考えている。しかし、胴の部分に傷が見られることがあるため、被害がないわけではない。（事務局）
- ・サケが入っているほどではないのであれば、もう定置網には大分関心が薄れてきていると思っ
てよいか。そうなると、アザラシがサケを食べられないという状況になり、栄養状態など個体群に
対する影響はどう出るのか関心がある。
⇒定置網での混獲個体は幼獣が多く、これらはサケをバラバラにしてしまうだけであり、大型個
体はサケを丸ごと食べている。捕獲網で捕られた大型個体からはサケを検出しているため、今
後どこまで定置網に依存するか、多分、若い世代は段々サケを食べられなくなっているの
で、離れていく可能性はあると思う。
⇒個体識別していた傾向を見ても、複数回出現する個体は減っており、一見さんのような個体が
非常に増えている。そういう意味では、執着する個体はかなり減っていると思う。
- ・マンボウ等により格子部分が塞がれるというが、マンボウは死んでいる状態なのか、それとも生
きている状態なのか。また、マンボウが網にかかると、網は壊れないが、サケなどが入れなくなる

ので困るのか。

⇒春に来るマンボウは大型であり、ほとんどの場合、生きた状態で格子部分にかかり、身動きが取れなくなってしまう状況である。マンボウは重機を使って引き上げ、次にできるだけ格子にかからないような処理をしている。また、格子網が破損する場合もあるが、それはマンボウというよりはサメ等の板鰓類が突破する際等に破れてしまうことがある。(事務局)

- ・ポケット網は入口と出口があるが、抜けてしまう個体もいるのか。また、ポケット網に複数個体入ることはあるのか。

⇒ポケット網の先端部分は巾着状のような形状になっており、片側だけ閉め、捕獲個体を引き上げる際にもう一方の閉じていた部分を開けて、個体を取り出している。なお、ポケット網は複数個体を捕獲するためではなく、捕まった個体が体をねじるような動きをしながら後退するため、そのような長さになっている。(事務局)

議事②：令和6年度(2024年度)事業実施計画(案)について

事務局より、資料1「令和6年度事業実施計画案」に基づいて説明した。

【主な質問】

- ・個体数の捕獲目標のところに、行動圏調査による放獣個体を除くと書いてあるが、行動圏調査は実施するというだけでよいか。

⇒基本的には行動圏調査は実施する予定であり、年2頭程度を想定している。(事務局)

【主な意見】

- ・アザラシ個体が段々獲れなくなっている状況で、現在の目標値を達成できるかどうか少し問題があるが、何か対策などは考えているのか。

⇒構想段階ではあるが、漁師さんを含め、秋にアザラシを捕獲する方が効率的だろうという意見もあるため、今後は秋スタートにして、不足数を春に捕うというような計画を検討中である。

ただ、そうなると実施計画が年度をまたぐため、その集計処理や個体群動態モデルの影響をもう一度計算し直す可能性が出てくるため調整中である。(事務局)

【今後の方針】

- ・第2期管理計画における現在のアザラシの捕獲目標値達成に向け、対策を検討している。

議事③：第3期管理計画案の方向性について

事務局より、資料2「第3期管理計画 事前検討案」に基づいて説明した。

【主な質問】

- ・えりも町は、今、国立公園の話があるが、この中でこのゼニガタアザラシの取組みの位置づけは何か考えているか。

⇒現在、日高山脈襟裳国定公園を大幅に拡張し国立公園化という動きがあるが、本取組みについては野生生物の関連業務として継続していく。(事務局)

- ・国立公園に入ってくると、捕獲することによってどのように影響してくるかが危惧される。

⇒国立公園に指定された場合でも捕獲を止めるとか、そういうことは考えていない。管理計画の必要性やなぜ捕獲が必要かについて、引き続ききちんと説明していきたい。なお、野生動物の軌跡や国立公園等の利用については、どの公園でもあることである。そのため、漁業被害がある中で、管理をしながら、国立公園の管理の中でも一緒に考えていくという形になると思う。(事務局)

- ・ドローン画像の自動カウントは、ドローンで撮らないとダメなのか。なるべく影響が少ない衛星

写真等の高い所からの方がいいのではないか。

⇒これまで様々な高度で試した結果、高度 90m ぐらいであればさほど影響がないというのが経験から分かっており、今のところはこの高度での撮影が良いと思う。(事務局)

【主な意見】

- ・1 計画策定の背景の第2段落に記載されている個体数の150頭あるいは600頭はどの地域の数字を示しているのか分かりづらい。また、2013年の600頭という数字はどの論文から引っ張ってきているのか、もう一度精査してほしい。
- ・アザラシ管理計画が進むにあたり、今提示しているような生態学、あるいは資源学に基づいた環境目標設定をした管理にシフトしていくことに対し、賛成である。
- ・こんなにサケが少なくなり、赤潮の影響でタコも居なくなったこともある中で、環境収容力が一定でよいのかと思うが、その中で多様な事業主体との連携により共存を図るという所とゼニガタアザラシの個体群管理の所は、どこがどういうふうに関わってきているのかというのがよく分からない。環境収容力は漁業との関わりもあるため、そのデータをどのように使って判断していくかというものをもう少し詳しく書いた方がよいと思う。
- ・資源管理の捕獲数だけでなく、モニタリングを実施し、何か不足の事態があった場合、しっかり調整していく。その中で従来の環境収容力一定という仮定の下では辻褄が合わないというようなことを察知した場合、その説明がつかない理由の一つとして環境収容力の変化が考えられるかもしれない。また、別のパラメータが変わったという理解をしなければいけないかもしれないが、そういうことも含めた調整ができるような、あるいは見直しができるような枠組みになっているのではないかと思う。
- ・環境収容力を見直すのは5年毎であり、5年間はこの環境収容力の何割という考え方の下に、何頭を目指すということになるのではないか。それであれば、初期の個体数から何割と数字上ではそんなに変わらなくなるが、生物学的な根拠として環境収容力をリファレンスにするという意味で考えるということで整理してはいかかがか。5年経った後に、環境収容力が違うのではないかという意見があれば、次期管理計画の時に考えることにしてはいかかがか。
- ・今、南米で高病原性鳥インフルエンザが流行っており、いつアジアに入ってもおかしくないと思うため、感染症についてもモニタリング調査項目に入れておいた方がよいと思う。
- ・9ページの図3に、環境省の所で両矢印があるが、どういう意味があるのか。図の目的にもよると思うが、実施体制と実際にどうみんなが動いているのかを見る図というのは必要ないか。
- ・実施体制について、『地域の将来構想を踏まえた個体群管理の方向性について合意形成を図る』のは大変良いと思うので、ぜひ具体的に進めて頂きたい。

【今後の方針】

- ・冒頭の文章については、どの地域の数字が分かるように修正する。また、数字の出典についても論文を精査する。
- ・環境収容力を毎年変えていくのは現実的ではないため、中間評価、あるいは第3期計画終了時点で検証し、見直すべき情報があれば見直していく。
- ・えりもに限らず、アザラシ類の鳥インフルエンザについては、疑わしいものに関してはなるべく把握できるようにし、早めに察知するという対応ができるように考えている。なお、記載する文言については検討する。
- ・図3については、会議体がいくつあるかを意図し、事業主体と地元との関係性を模式的に示したイメージであるため、取り組みをすべて書けるものではないが、もう少し分かりやすい図に変更する。
- ・地域で何かしたいというような計画や考え方があった時には、それらを踏まえたアザラシの取組

みにしていきたい。地域のご意見を十分伺いながら事業を進めていくことが重要であるため、引き続き強化していきたい。

議事④：その他

<ステータスレポートについて>

- ・目次に気候変動の影響とあるが、今、野生鳥獣にもかなり影響が出ていると思うので、横断的に議論する場というのはあるのか知りたい。
⇒アザラシに直接の影響ではなくても、漁業資源(アザラシの餌生物)には影響はあると見受けられるので、当然それなりのことを書くことになると思う。
- ⇒現在、情報収集中であるが、かなり親潮が弱くなってきており、その影響でえりもの海域に非常に大きな影響が出ている。(桜井委員)
- ・赤潮に関しても、気候変動のところで触れて頂きたい。
- ・「3. えりも地域の水産資源と漁業被害の現状」というところの中に、漁業被害に関するアンケートなども含め、地域としての意識みたいなものは入ってくるのか。
⇒えりも町の方にも書いて頂いたところもあるため、どういう姿勢で町が臨んでいるということを書かれていると思う。また、宮内先生が実施されたアンケートのとりまとめについては、「5.3 漁業被害意識調査」に入れるよう検討する。

<一般傍聴者からの質問について>

- ・行動圏調査を実施する個体が2頭程度というのはどういう理由か。安楽殺してしまうのであれば、発信機を付ける頭数を増やした方が分かることも多い気がする。
⇒事業としての予算やマンパワー等の兼ね合いを考慮し、2頭という計画を立てている。(事務局)
- ⇒これまで小さい個体は数多く放獣しており、大体行動パターンが分かっている。今後は成獣や亜成獣などあまり分かっていない成長段階の個体を選ぶことで知見を広めていきたい。(事務局)
- ・捕獲や混獲での溺死個体の数はどのくらいなのか。また、昨年の科学委員会で溺死について国際的に安楽死方法にそぐわないという話が出ていたが、その後、そのことに関する議論や対策はあるのか。
⇒当歳獣で混獲された場合は、8~9割程度の割合で死亡することが多いが、これらはサケを食べようとして網に入っているというよりは遊んで入っているうちに出口が分からなくなってしまい、結果として溺死になることがほとんどである。また、えりも町の定置網の置き方が中層であるため、網からの出方が分からない場合は溺死してしまうが、これはアザラシを捕獲するためではなく、魚を捕れやすくするための置き方であるため、避けることはできないと考えている。(事務局)
- ・水族館に譲渡した個体12頭のうち、現在も生存している個体は何頭か。
⇒現在、データがないため、個別にえりも事務所に確認頂ければ、できる範囲で対応する。(事務局)

以上